

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372801045
法人名	社会福祉法人 綾友会
事業所名	グループホーム桜の丘
訪問調査日	平成 20年 1月 30日
評価確定日	平成 20年 2月 12日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372801045
法人名	社会福祉法人 綾友会
事業所名	グループホーム桜の丘
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151 - 2 (電話) 096-234-5022

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号ロフティ長安寺ビル402号		
訪問調査日	平成20年1月30日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(20年 1月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 2月 13日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝 食	200 円	昼 食	350 円
	夕 食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	3 名	要介護2	0 名			
要介護3	5 名	要介護4	0 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	85.8 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	谷田病院、なるせ歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道沿いの一見すると小高い丘に法人の施設敷地内の入り口に古民家調の造りのホームがある。「入居者が真ん中」の理念の下、共有の居間にはそれぞれの生活の流れに沿うようにテーブルや椅子・炬燵が配置され、時間と共に場所の中心が移っている。室内やホーム周辺の環境整備が行き届いており入居者の活動は活発である。運営推進会議や家族との交流も活発で地元の行事や高校との交流、介護教室の開催等を通じて、地域との信頼関係構築や認知症ケアの啓発につながっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	服薬については服薬の目視や、時間差・飲み易い工夫などを行っている。調理・食事面では、献立や買物を入居者と一緒に行い生活者として幅を広げている。また、ヒヤリハットでの注意点をスタッフ会議で検討し日頃のケアに生かす様に取り組んでいる。今後もさらに小さなヒヤリハットの検討を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目をいくつかのパートに分担して職員各自が取り組み、全員の話し合いを経て管理者・計画作成担当者がまとめている。結果はスタッフ会議や運営推進会議で検討し改善への取り組みをしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に開催されており、入居者やサービス提供の状況・行事・外部評価について等報告や説明と共に、委員からの要望や助言、行事協力などが討議されている。また、地域でのホームのあり方や地域交流に向けての活発な意見交換が行われている。介護教室開催も場所や回数の拡大検討も上がる評価を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム便りや、家族の面会時等に近況を詳しく報告している。また年4回の家族会では、出席者もだんだんに増しておりホームへの意見・要望を聞き、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営推進会議の情報を取り入れて地域行事・清掃活動の参加や介護教室の開催を通して地域での連携を担う姿勢が窺える。近隣の人が散歩で立ち寄り、入居者の知人の訪問もある。高校の実習生の受入れを通じて交流が生まれ学校行事への参加も行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の施設理念の見直しを図り「地域と共に、入居者が真ん中」という分かり易く具体的な言葉をグループホームの理念とし、定着しつつある。本人本位の支援・地域との支えあいを全員で目標にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議・勉強会や日々の中で困った時など理念に沿ったサービスのふり返りをしながら、常に意識して取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	草取り等の区役には職員が参加し入居者も時々加わっている。地元の秋祭りに出掛けたり、近くの高校からの実習生の受入れを通じて学校行事の参加交流の場面作り等を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、自己評価は職員全員で分担して取り組んでいる。結果はスタッフ会議や運営推進会議で検討し改善に取り組みケアの質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月ごとの会議では、入居者の状況や行事報告、外部評価、事業等の説明と共に、介護教室への提案や行事協力申し出等双方向の意見交換が活発である。法人の運動会への委員の参加はホームへの理解のきっかけになっている。		

グループホーム桜の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当職員とは、運営推進会議で意見交換やアドバイスが行われており関係作りの場となっている。法人施設で行っていた申請手続き等も今後は、ホーム自らが手続きに行く予定である。また、介護教室の共催依頼等に取り組みたいと思っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会等に日々の様子や健康状態・職員の異動・金銭管理(定期的)を報告している。ホーム便りを年4回発行し担当者の一筆を添えて郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に4回家族会を開いており、意見や要望を聞く機会を設けている。面会時にも家族の意見等が出ており、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者・家族は法人全体の職員達とも馴染みの関係が構築されており、補充や異動の場合もダメージは最小限に収まっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の全体研修・月次研修には職員全員が参加している。それぞれの職責や経験に応じた研修をおこなっている。法人外の研修等にも積極的に研修へ派遣し、研修後報告をして情報の共有に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会による実践的な研修会に参加している。各グループホーム内で行なわれる研修会は、直接的な情報交換の場となり、サービスの質の向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族との面接や介護支援専門員と細やかな情報収集を行ない、馴染みの関係作りをしている。年度初めに法人関連施設からの入居者が2名いたが、法人間の連携体制により、スムーズなケアに繋がった。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理や畑仕事・季節の行事等入居者から学ぶことも多い。入居者と語らいながら共に過ごす時間をもち支えあう関係が構築されている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>カンファレンスや日々の関わりから把握するようにしている。家族や介護支援専門員から情報を得たり相談をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>スタッフ会議でテーマを決めケアカンファレンスを行っている。その後、入居者の担当者が計画案を立て職員間で検討し、最終的に計画作成担当者が作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月毎のモニタリング、6ヶ月ごとの見直しを行なっている。ケアプランに沿ったケース記録の書き方や検討についての勉強会を開き、本人や家族等の意見と共に計画見直しの際の検討材料として役立てている。</p>		

グループホーム桜の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外泊、医療連携体制を活かして入居者・家族の負担軽減の支援等を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への定期的な受診の他、かかりつけ医の通院介助や歯科診療の自宅送迎のシステムを利用するなどして本人・家族の希望に沿った支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期の対応指針を説明し、家族の意向を確認している。医者の許可、家族の了承等条件が揃えば看取りの体制が整い、職員も最期まで安らかに過ごせるよう見守り支援することを共有している。		家族にとっては、終末期のあり方と同様に介護の重度化のケアについても心配があるようです。それぞれについての説明を入居時以降にも望まれます。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の声かけには十分な配慮を心掛け、個人情報については事務所で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、1人ひとりのペースで暮らせるように支援している。職員は入居者に対し声掛けをするが、参加やペースの尊重には配慮している。		

グループホーム桜の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週入居者の希望を元に栄養面も考慮して献立を立てている。入居者と職員は菜園や鶏小屋から野菜や卵を採って来て、食事の支度や下膳を役割として、楽しみながら一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に隔日入浴だが、毎日でも夕食後の入浴にも対応している。入浴拒否がある場合は衛生面に配慮するものの声かけ等に工夫し無理強いはいしない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の役割や楽しみごとを職員は把握し、調理の準備や下膳・後片付け、家事(洗濯物たたみ等)などの役割支援やニワトリの餌やり、菜園の畑仕事、裁縫、散歩・買物などの楽しみごと、気晴らし等の支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人関連施設のケアハウスへの訪問やホーム周辺の散歩などを行っている。散歩道の整備や押し車等の準備がされており環境整備もできている。テラスは外気浴として利用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を職員は認識しており、鍵をかけないケアを目指している。帰宅願望がある場合は、見守りを重視し後ろから付いて行き、時間や様子を見て声かけをしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年2回の避難・消火の防災訓練を実施している。消防団からの協力で年末の夜警見回りがある。		

グループホーム桜の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた支援を心がけ完食出来なかった場合申し送りをして気をつけている。水分は定期的な摂取時間や摂取介助により把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、大きなテーブルを中心にソファークーナーや炬燵のある畳の間、キッチンとダイニングコーナー等、生活の流れに沿えるスペースである。入居者は、椅子を押して移動がスムーズに出来るため活動的である。また、テラスでは外気浴や食事などの場にご利用でき、心地よく過ごせる工夫が随所に見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と共に過ごし易い部屋であったり、花いっぱい部屋であったり、整理整頓ですっきりとした部屋であったり、一人ひとりが過ごしやすい居室作りである。		訪問時に居室の窓が一日中開放されていたのが気になります。こまめな配慮で、入居者にとって日中でも部屋で過ごせる時間の工夫をお願いします。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム桜の丘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県甲佐町西寒野
記入者名 (管理者)	高見 芳雄
記入日	平成 20 年 1 月 4 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に、「地域ともに」とあり地域との交流や住み慣れた地域の訪問などを行い、理念の実現に努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「利用者がまん中」を意識して、日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には家族会にて伝えている。また、地域住民には介護者教室にて理念に基づきケアを行っていることや、回覧板を通じ案内している。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑や花壇の手入れを入居者と一緒に行い、気軽に立ち寄れるように努めている。目の前のバス停まで散歩に出かけ過ごす。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動、祭りに参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人会に参加して、介護者教室を開催した。		今後も教室の開催を通じ、地域住民を対象に認知症の理解や接し方など地域高齢者のケアサービスの推進に還元していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善の指摘項目について、スタッフ会、運営推進会議において検討し、改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価を公表して、意見交換を行っている。また、施設行事に参加していただき、利用者の生活の一部を見られている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において、行政との連携をとっている。		行政との連携を強化し、地域密着型サービスとして、何が出来るのかを検討して行きたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	上益城グループホーム連絡会主催の、青年後見人制度の研修会に参加して、相談先を見つける事ができ、今後に生かしたい。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内において、身体拘束廃止委員会が設置しており、拘束による虐待の防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、契約書、重要事項説明書の内容を十分説明し、理解・納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者からの、不満、苦情は速やかに対処している。また、利用者から、希望や意見がないか日頃から声をかけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な新聞の発行により、活動の様子や、職員の異動を伝えている。毎月日用品の請求を送付、通帳預かりの方には、3ヶ月ごとに明細を送付している。家族会や面会時には、入居者の様子を伝えている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開き、ご意見を聞いたり、話し合う機会を設けている。また、苦情受付の第3者委員の紹介を行った。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(2ヶ月/1回)を行い、意見や提案を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の状況の変化時には、勤務調整を行い職員を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者との馴染みの関係を大事にし、職員の定期異動は、行っていない。また職員も地元を多く配置している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、年1回全職員を対象に一泊研修を実施している。それぞれの職責ランクに応じた研修内容となっている。法人外では、老施協、県社協の研修等に積極的に参加している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同郡内で組織する同業者会議や、研修会に出席しネットワークの構築に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	困難事例へのスーパーバイズ、相談等組織としてのサポートが常にある環境を作っている。ストレス発散対策として、ビーチバレーやソフトボール等のスポーツを取り入れ職場外で汗を流している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	新人事制度を導入し運用している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるよう支援し、また期待している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから、利用開始前には、面接を行い家族、本人より、情報収集を行いフェイスシート作成している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから、利用開始前には、面接を行い、今までのサービス利用状況や経緯を聞きケアに活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みがあった場合には、本人の状態及び入居状況により、必要に応じ他のサービスを紹介している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居始めは、家族や当時の介護支援専門員と蜜に連絡報告を行いながら、生活援助をおこなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、食事や余暇時間を常に入居者の隣にて過ごすように、心掛けている。季節の行事や畑のことなど、利用者から話を聞き学ぶことがある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の状態を報告・相談して居室の改善を行ったり、本人の不安なときには、家族に電話連絡して、安心できるように支援の協力を依頼している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、家族に笑顔を見せられるように努めている。行事、外出には、家族の参加もありよい関係が築けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	姪さんのクリーニング店に、通われている方も居る。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係について、スタッフ会で情報を共有して、調整や世話役の方に話し相手をして頂く事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方に、利用者と面会に行ったり、行事等でお会いしたり、入院退去の方には、面会をして家族にも挨拶を行った。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスによって、本人の情報を交換して、出来ることを伸ばせるように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族を訪問したり、関係介護支援専門員より情報を受けたり、相談したりしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ることを常に考えて支援に努めている。心身の状態や、感情で日々変化があるので、注意している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題を検討し、ケアを統一できるように勉強会を行った。		スタッフ会議で介護計画を検討したり、日々の状態で介護計画に反映できる事柄をわかりやすく記録に残している。また、介護計画変更時などは家族への説明・希望などを聞き計画に役立てている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間に応じて見直し、入院後には、状態にあった計画をたてている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、毎日ケース記録を記入しており、気づきは口頭でも伝え、情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を生かして、ホームで点滴を行い、本人の負担を軽減している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる、舞踊慰問、詩吟教室等で生活を楽しまれている。地元の高校の体育祭、文化行事からの案内では、生徒の協力により楽しむことが出来た。		利用者と地域とのさまざまな接点を今後も続けられるよう取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用されている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ行っていないが、必要と思われるときには、協力していきたい。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に、本人のかかりつけ医があり、受診時には、情報提供を行いながら本人を支援している。訪問診療を受けられる方も居る。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医による訪問診療が、月1回ある。利用者の状態により相談している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が、職員として配置されており、日常の健康管理や、状態の変化による受診には、速やかに対応している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の情報提供を行い、安心して過ごせる様に支援している。面会に出かけ、早期退院出来る様に連携をとっている。家族とも、回復状況を共有している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応は、現在まで行っていないが、家族の意向は確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	法人内で、ターミナルケアの勉強会が行われ、今後に備えている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを防ぐために、情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	さりげない声かけにて、誘導を行っている。個人情報、事務所内で管理している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者に合わせて声かけし、理解しづらい事柄など本人が分かりやすいように工夫したり、拒否されたことを利用者が好まないとい決めつけずいろいろな面から働きかけを行っている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	基本的な生活の流れは決まっているが、利用者のペースに合わせて見守りながらケアを行っている。買い物希望している方には付き添ったり、土をさわりたいと希望される方には畑の手入れや、にわたりの世話など希望に添えるよう対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	行きつけのパーマ屋に出かけられたり、毛染めをされる方もいる。起床、入浴後の身づくりの乳液を用意される方もいる。行事の際には、化粧をしたり気分転換にマニキュアを塗ったりしている。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	畑から野菜を収穫したり、食事の準備、味見、片付けを一緒に行っている。包丁が使えない方でもテーブル拭きや野菜の下処理を依頼したりしている。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	10°・15°のお茶を時間には、好みの飲み物を出している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、誘導を行っている。排尿の少ない方や便秘気味の方には水分摂取を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の方にはチームプレイで介助を行っている。本人の希望を確認して入浴を勧めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人にあわせて添い寝や運動で対応している。前夜不眠の方には、眠気が見られたら休むように声かけをして、休ませている。		
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮できる様依頼、食事の準備、片付けには、それぞれの役割がある。又、終了時には礼を述べている。気晴し支援として、散歩、畑を見に行く、ボール遊び等を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人を力に応じて所持したお金を使える様買い物希望があれば出かけている。現金所持者3名 支払うことができる方4名		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば、買い物や面会(併設のケアハウス)に出掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月2回のドライブや、サーカス、阿蘇の保養所、片岡演劇場所など家族も参加され出かけている。		今後はドライブだけではなく、ふるさと訪問の実現に取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	葉書きを書く様に勧めたが書かれなかった。電話も本人自らがかけられる事はない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会での交流もあり、面会時他の利用者にも声をかけられたり、一緒にレクを楽しまれたりされる。弁当を持ってこれ一緒に食事をとられることもある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で「身体拘束廃止」の研修があり職員の意識向上に努めている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中居室、玄関に鍵をかけていない。万が一帰宅要求により、門外へ出られる際には、付き添ったり、見守りを行い対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常に利用者を把握し、職員間で申し送っている。夜勤帯は起きられたらすぐに対応できる場所に居て、1H毎の巡回を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、保管が必要なものと、利用者が使用時に注意が必要なものとを分けて管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットの検討と、職員間の情報交換により、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は応急手当や初期対応について、講習を受けている。急変時の対応について勉強会を行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。地元消防団の夜警見回りが年末は行われている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に日頃の状況を伝えている。又、受診後は結果報告を伝えている。		加齢と共に、身体の衰え、認知症の進行について今後起こりうる事を、伝えて対応策を話し合っていきたい。
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前中健康チェックを施行(検温、血圧、脈拍)異常時には病院受診を行い、留意事項は申し送り簿に記載し情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬されている薬について勉強会を実施している。副作用について一覧表を作成。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行っている。腹部マッサージ、水分摂取、散歩、体操を心がけ個人にあった下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、義歯洗浄、うがい、歯みがき誘導を行っている。週2回義歯洗浄剤による手入れを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった食事形態を提供し、水分摂取がスムーズに出来る様声かけ摂取介助を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の勉強会を行い、対応策を職員間で決めている。入居者、職員共々感染しないように日頃から、換気、手洗い、嗽を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材購入分から使用する様配慮し、傷んでいる品物は、その都度交換している。また、調理器具等は、定期的に日光消毒したり、消毒液にて、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は早出者出勤から、遅出者退勤まで開放している。門や玄関周りに、プランターに花を植え設置している。12月は生垣にイルミネーションを飾っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間があり、台所での調理の音を感じたり、テラスや庭でお茶や食事をして季節感を感じられる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フラットな畳の間や段差のある畳の間があり、お気に入りの場所で過ごされている。テラスにも、長いすと一人用のいすがありそれぞれ好みで使われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室が3室あり、面会時にゆったり過ごせる様座卓を持ち込まれたり、本人の好む花で飾り付けられた家族もある。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、清掃時、起床時に窓を開けている。就寝前には、エアコンをタイマーにて温度調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーで壁面には、手すりを設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日めくりカレンダーを2箇所、時計を2個設置した。日めくりの上には、書道の時間にその月を書いていただき、月日がわかる様にした。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスや庭でお茶や食事をして過ごしている。建物回りは、入居者の散歩コースとして楽しめるように季節の花を植えている。畑の野菜も季節を感じられている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者、家族、職員とも、馴染みの関係が出来、アットホームな雰囲気施設の施設である。入居者の急変事には、併設施設や協力医療機関により速やかに対応でき、安心して暮らしていただけるホームである。広いコミュニティスペースやテラスにて、季節を感じて頂ける。